

中部産業遺産研究会 会報 第50号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage

目次

. シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第31回の開催について	1
. 第121回 定例研究会の開催について	1
. 2012年度 パネル展「名古屋のまちづくりを支えた鉄道網」と講演会の報告	柳田哲雄 1
. 第120回 公開定例研究会の報告	井土清司 3
. お知らせ	4

. シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第31回の開催について

テーマ：「もう一度日本の技術史を学ぶことと今後の技術革新とは」

開催日時：2013/03/24（日）13:00～16:15、シンポジウム後は定例研究会を行います。

場 所：名城大学名駅サテライト・多目的室

13:00～

基調講演：松尾宗次氏（元新日本製鐵株式会社・

内閣官房「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」委員）

14:00～

パネルディスカッション：

パネリスト：松尾宗次氏

財部香枝氏（中部大学 国際関係学部 准教授）

天野武弘（中部産業遺産研究会副会長）

橋本英樹（中部産業遺産研究会会員）

山田 貢（中部産業遺産研究会会員）

コーディネーター：八田健一郎（中部産業遺産研究会会員・

シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第31回実行委員長）

17:30～19:00

懇親会（名古屋駅前付近・会場未定）

事前のお申し込みをお願いします。詳しくは、チラシをご覧ください。

. 第121回 定例研究会の開催について

第121回例会は、前記のシンポジウム「日本の技術史をみる眼」第31回後に行います。

開催日時：2013/03/24（日）16:15～17:00

場 所：名城大学名駅サテライト・多目的室

内 容：研究報告、調査報告、保存問題、資料紹介など

. 2012年度 パネル展「名古屋のまちづくりを支えた鉄道網」と講演会の報告

柳田哲雄

今回で8回目となる2012年度パネル展「名古屋のまちづくりを支えた鉄道網」は、（公財）名古屋

まちづくり公社・名古屋都市センターとの共催と、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、産業考古学会、名古屋商工会議所の後援を得て、2013（平成25）年1月22日（火）から2月3日（日）まで、名古屋都市センター11階まちづくり広場・企画展示コーナーに於いて行った。

テーマは「名古屋のまちづくりを支えた鉄道網」である。さらに、今回のパネル展に関連する講演会を期間中の1月27日（日）に、同センターのまちづくり広場11階ホールに於いて、講師 須田寛氏（JR東海相談役）による特別講演「名古屋都市圏の鉄道 その経緯、現状、展望」と題し、を開催した。講演会に引き続いて、当研究会の定例研究会を一般に公開して行った。

今回のテーマである名古屋のまちづくりを支えた鉄道網は、名古屋のまちづくりと共に拡張され、郊外へと発展した。また、その時代のニーズにより役目を終えたもの、市電から地下鉄のようにボタンタッチされたもの、鉄道に欠かせないレール製造、鉄道の歴史、鉄道関係資料館等を50枚のパネルで紹介した。

展示したパネル題名は次のとおりである。

名古屋の電鉄発祥の地 名古屋の市電
名古屋港線、白鳥線 瀬戸電、郊外線 名古屋駅・金山駅・神宮前駅・大曽根駅の駅周辺の変遷
名古屋の地下鉄 近鉄 鉄道の歩みと鉄道マップ レールの製造過程 鉄道を育てた人物伝 名古屋近郊の鉄道博物館・鉄道遺産めぐり：名鉄資料館、JR東海・リニア鉄道館、市電レトロ館、貨物鉄道博物館など 名古屋駅から金山駅に至る鉄道の歴史の見える散策路

当研究会員と名古屋都市センターの担当者は、6回の勉強会、打合せ会を開き、意見・情報交換を行いパネル作成に当たった。さらに、名古屋市交通局の「市営交通のあゆみ」のパネル4枚を特別展示した。

特別講演では、須田 寛氏（JR東海相談役）より、「名古屋都市圏の鉄道 その経緯、現状、展望」と題して、名古屋都市圏の特徴、名古屋圏交通の特徴、名古屋圏鉄道の現状、名古屋圏鉄道今後の方向、機関別の経緯について資料に基づき、近い将来、名古屋に入ってくるリニア新幹線を活かした名古屋の街づくりには、市民全体の参画や合意が特に求められる、と熱く語られました。この思いを若い世代へ引継ぎたいものである。

続いて、当研究会員から、次の2題の発表を行った。

「名古屋市電小史」 藤井 建会員

「鉄道の歴史が見える散策路」 山田 貢会員

期間中の入場者数は2,103人、講演会の参加者は85人であった。また、中日新聞1月28日付朝刊に「名古屋の鉄道史を写真パネルで紹介 都市センター展示」と紹介された。

入場者からのアンケートに書かれた内容は、昔の電車、駅舎の写真が懐かしさと驚きがあった。



写真1：パネル展会場



写真2：特別講演の須田 寛氏



写真3：発表する藤井 建会員

名古屋駅の変遷、市電から地下鉄への移行、私鉄（名鉄、近鉄など）の敷設、鉄道関係資料館などの紹介もあり、普段見ることができない鉄道資料、写真など大変興味が深かった。愛電、名鉄の歴史がよく分かった。資料が充実しており、知らなかったこと、後世に伝えるべきことなど色々あった。未知のエリアを学べた。鉄道の歴史と共に駅・跡地の展示も良かった。よく調査・研究されている、等々の意見をいただいた。

パネル展の感想は、大変良かった 48.5%、良かった 39.7%を合わせると 88.2%の入場者に満足していただいた。パネル展を何でお知りになったかについては、新聞の案内と友人の誘いが多く、チラシ、ポスター、キラッ都なごや、ここに来てからなどであった。なかにはもっと宣伝したらという意見もいただいた。

講演会の感想は、将来の鉄道を含めた交通網と生活との課題の入口を改めて認識できた。歴史に学んで今後の生活に生かすことを考える入口に立てたように思う。市民としての立体的関わりも必要。改めて名古屋鉄道のことが分かった。須田 寛氏の実例、体験を伴った貴重な話を聞いた。

・第 120 回 公開定例研究会の報告

司会（漢人省三）・記録（井土清司）参加：37 名

場所：名古屋都市センター金山南ビル 11 階、開催日：2013/01/27（日）

第 120 回公開定例研究会は、2012 年度パネル展の講演会に続いて行われた。

1．研究報告、調査報告

報告「待望の水、水路を走る～竣工から 100 周年を迎える近代化遺産金山揚水」

小西恭子（豊田市近代の産業とくらし発見館）

資料：A 4（両面）2 枚、発見館企画展パンフレット A 3（両面）1 枚

豊田市駒新町金山の雑木林の中に、煉瓦造りの遺構のある「金山揚水」について、耕地整理組合設立、施設建設等の経緯について、次のように報告があった。

- ・1909（明治 42）年の干ばつで用水への待望が起きる。
- ・1911（明治 44）年 6 月 耕地整理組合を設立し、同年 12 月施設の起工式を行う。
- ・1912（明治 45）年 5 月 揚水機の試運転を行う。（ランカシャーボイラとコンケロール式ポンプ）
- ・1912（明治 45）年 7 月 通水式を行う。
- ・1916（大正 5）年 6 月 ポンプ、蒸気機関を増設し 2 台運転となる。（通水対象面積 345 町歩となる。
燃料の石炭は毎日刈谷の市原港から牛車で運ばれた）
- ・1919（大正 8）年 動力を蒸気から電力へ変更（第一次世界大戦による石炭の高騰により、蒸気機関を売却して、150 馬力（112.5kw）電動機導入）
- ・1973（昭和 48）年 5 月 愛知用水への水源転換（高度経済成長などによる逢妻男川の水質悪化）併せて耕地整理組合設立等に尽力された、内藤乾蔵（ケゾウ）氏（1871～1960）都築重治郎氏（1862～1941）の紹介があった。

なお、金山揚水の調査には、本研究会会員の協力を得たことへの謝辞があった。

また、本件については、産業遺産研究第 20 号へ掲載予定です。

2．シンポジウム

シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第 31 回 山田 貢

テーマ：技術史を学ぶことと、今後の技術革新とは

開催日：2013/3/24（日）13：00～16：00 シンポの後は定例研究会を予定

場 所：名城大学名駅サテライト・多目的室

講 師：松尾宗次 元新日本製鐵株式会社・

内閣官房「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」委員
新しい視点で技術史を学ぶこととし、テーマに沿った討論を予定しています。是非多くの方の参加をお願いします。

参加申し込みは、配布したチラシの申込書または、本会のホームページから申込みできます。

・お知らせ

事務局より、住所・所属等が変更になった会員へのお願い

年度が替わるなどで職場や住所、電子メールアドレスが変更になった会員は、次の当会事務局までご連絡ください。

連絡は、次の4方法があります。 h.noguchi@uotushaji.co.jp、電子メール版ニュースレターをそのまま返信(天野副会長と橋本広報幹事にも同時に送られます) 自宅 FAX 052-453-5838、手紙や葉書。

会計幹事より、年会費納入について

2012年度の年会費の納入をお待ちしています。例会時に現金支払いも出来ますが、担当者が欠席する場合もありますので、手数料が発生しますが下記の郵便振替や銀行口座をご利用ください。

個人の年会費は4,000円です。

[郵便振替] 口座番号：00840-1-174258 口座名：中部産業遺産研究会

[銀行口座] 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店 普通預金 口座番号：1531266

口座名：中部産業遺産研究会 会計 市野清志

また、2011年度の未納の方も数名おられ、2年間未納の場合は退会となります。

問い合わせは、市野会計幹事(ichino82@tcp-ip.or.jp)または当会事務局までお願いします。

研究誌の編集より、『産業遺産研究』第20号について

論文・調査報告や研究ノートなど原稿を募集しています。原稿の締め切りは2013年3月末です。投稿予定の連絡は、浅野伸一幹事(s-asano417@rapid.ocn.ne.jp)または当会事務局までお願いします。

会報の編集より

編集委員の募集および、ご意見やご希望などお願いします。

産業遺産に関する情報・短信・文献紹介などお気軽にご投稿ください。投稿は郵送または電子メールでお送りください。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けてください。原稿はテキスト形式で作成していただくと編集作業がしやすいので、なるべくテキスト形式でお願いします。原稿送付先：野口英一朗 noguchi.d5@dion.ne.jp (アドレスにご注意ください。@の前にドット。)

電子メールをお持ちの会員で、橋本幹事から電子メールニュースが配信されていない会員は、メールにて、橋本幹事(hidekih@wine.plala.or.jp)までご連絡ください。すでに着信確認メールを出されている方は、再度送信いただく必要はありません。

中部産業遺産研究会会報 第50号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.50 2013-3

発行：中部産業遺産研究会

発行人：石田正治

発行日：2013年3月1日

編集委員：中住健二郎・橋本英樹・伴公太・野口英一朗

事務局：〒453-0014 名古屋市中村区則武2-34-12 シェルコ-ト則武502 野口英一朗気付

中部産業遺産研究会のホームページは、<http://csih.sakura.ne.jp/>です。

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2008-2013 The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.